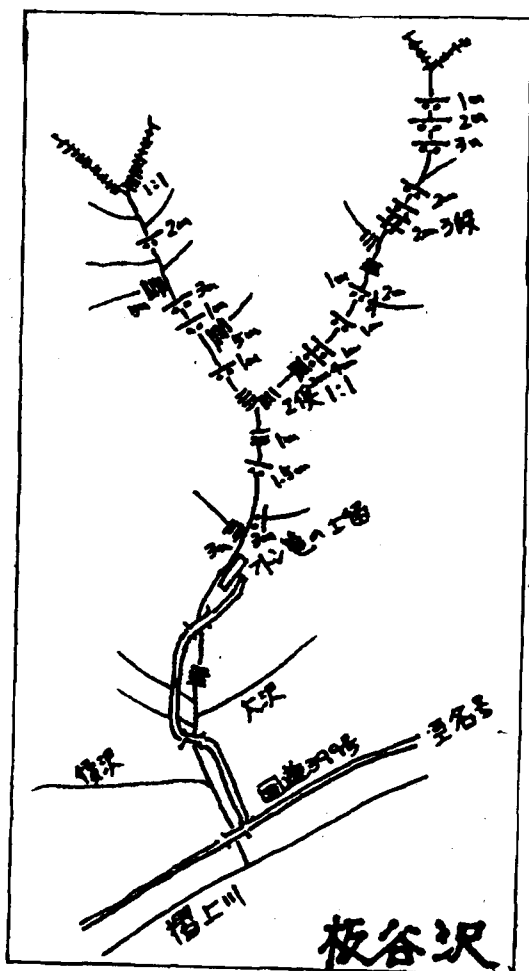


国が行なってきた事業だと聞いていたが、国有林は至る所伐採され、裸同然にされているように見える。赤字を理由に伐採が急激に進んだり、造林に手を抜くようなことになれば、自然は破壊され、日本の緑は危機に面してしまうのではないだろうか。

(記・.....)

[タイム] 落合橋(14:45)→板谷沢出合(14:55)→橋(15:55)



合→二俣(14:45)→左俣終了(15:10)

### 板谷沢左俣

1985年8月31日

㊦

板谷沢林道起点に車をデポし、しばらくは林道を歩いて、大沢出合から遡行を開始する。しばらくは林道との並行で河原歩き。やがて林道も終点となり、フトン籠による土留とコルゲートパイプの排水管がある。この所、右岸、左岸より滝状となって小沢が合流している。

先に進むと二俣となる。水量はほぼ同量。地図に水線の引かれた左俣に入る。適当に小滝が出てきて、変化に富んでくる。

源頭部に来ると、倒木が沢を覆って歩きにくい。倒木の下は花崗岩のナメとなっており、稜線まで一気に突き上げているのを確認して遡行終了とし、戻ることにする。(記・.....)

[タイム] 林道起点(14:00)→大沢出

### 板谷沢右俣

1985年8月31日

L

板谷沢左俣の遡行を終え、いったん二俣まで戻る。時間を見たらまだ余裕があ

るので、右俣の調査に移る。

右俣に入って1分と違まないうちにナメ滝に出くわした。左俣が花崗岩であったのに、こちらは凝灰岩である。滝は大きなものはないが、小滝がいくつも出てくる。

一条の筋となって落ちる3段の滝を通過する。その後も2m前後の滝が続き、沢水のきれぬ源頭部まであきない遊行が楽しめる。源頭部は、左俣と同じく、稜線まで一気に突き上げていた。

今日は、小さいが多くの滝の出現により、予想以上に楽しい遊行だった。満足して帰路につく。

(記・)

[タイム] 二俣(15:25)→右俣終了(15:50)

## 千人沢

1985年7月21日

L.

仕事を終えて出発。目的の千人沢は、後沢にかかる落合橋のひとつ手前の沢である。

橋に千人沢と書いてあるので、間違うことはない。しかし、あまりにも小さな沢である。

橋を降りて遊行を開始するが、すぐに林道が横切り、沢はヒューム管の中に入ってしまふ。しかたなく林道に上がり沢をさがすが、幅1m程のこの沢は、刈り払った枝の下で歩けるものでない。

ヤブをこぎながら登ってゆくと、ようやく広い河原に出た。一部伏流となり、至る所クマかカモシカか、大きな足跡が残っていて、気分の良い沢ではない。

顕著な二俣を右に入り、稜線が見えてきた所で、ヤブもひどいので遊行終了とする。二俣手前のだいたい色の広いナメがこの沢唯一の収穫であるが、沢登りの対象としてはあまりにもおそまつである。

(記・)

[タイム] 千人沢橋(13:50)→遊行終了(14:20)

